

所属・氏名（ 看護学部 看護学科 氏名：三味祥子 ）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) 先輩－後輩関係から学ぶピアラーニングの思考過程	共著	令和3年11月	日本看護学教育学会誌, Vol.31, No.2, 57-68.	援助関係をつくるコミュニケーションの授業にピアラーニングを導入し、看護学の初学者である1年生が援助関係をどのように意識し行動いくのか、ピアラーニングの思考過程を明らかにした。 (二井矢清香、鍵浦文子、杉野美和、岡本亜矢子、三味祥子)
2 (学術論文) 異学年の協同学習におけるピアラーニングの学修効果 《筆頭論文》	共著	令和3年	広島国際大学看護学ジャーナル, Vol.18, No.1, 25-36.	学生同士のピアサポートという構図に着目し、先輩－後輩関係という異学年における協同学習において、2年生がピアサポーターとして1年生に教える経験を通して獲得した指導能力と体験により得られえた成果を明らかにした。 (三味祥子、岡本亜耶子、鍵浦文子、二井矢清香)
3 (学術論文) 看護大学1年生が臨地実習前・後で思考した援助的関係－John Dewey の教育理論を視点とした考察	共著	令和6年	広島国際大学看護学ジャーナル, Vol.21, No.1, 3-15.	Dewey の教育理論を通して、看護大学1年生が思考した援助的関係について研究を行った。1年生は、援助的関係について、定義的に決めつけたり、患者－看護師の関係性というひとつのイメージで画一化しようとするのではなく、学生は個々の経験から援助的関係について、意味づけていっていたことが明らかとなった。 (岡本亜耶子；二井矢清香；鍵浦文子；三味祥子)
4 (発表) Effects of Peer Supporters Incorporating Peer Learning during Cross-School Years on Basic Education in a Japanese Nursing University	共著	令和3年11月	ICN 大会	The need for versatility skills, which forms the basis of the ability to build relationships, has been proposed in bachelor's education courses in nursing in Japan. It was introduced as cooperative learning in the heterogeneous learning year from the viewpoint of peer learning, which is considered to be one of the educational methods of active learning. In this study, we aim to clarify the effects of peer learning on second-year peer-supporter students, through their instructional experience. (Shouko Sanmi, AyakoOkamoto, Fumiko Kagiura, Kiyoka Niiya)
5 (発表) 看護学生が教える経験を通して育む指導能力－学年の違いに着目した内容分析－	共著	令和7年8月	第35回日本看護学教育学会学術集会, 北海道	ピアラーニングの教育実践を行い、先輩学生である4年生と2年生の教える経験を比較し、指導能力の相違点を明らかにした。教える経験は、学年が上がるほど論理的思考や責任の意識を喚起できるため指導能力を育む教育的価値があった。 (二井矢 清香, 岡本亜耶子, 鍵浦文子, 三味祥子)

令和 8 年 4 月 1 日 現在